

科の説明

脳神経系疾患への血管内治療については、近年の技術革新により一診療分野として確立されるとともに、高度の専門性を要求される分野ともなっています。

また、吸引カテーテルやステント型回収機器等を用いた再開通療法の発展により、当初の外科的治療の非侵襲的代替医療という側面から、脳卒中医療そのものを変革しつつある学問領域となっています。

当科での研修は、「教科書やマニュアル本通りの医療でなくそれを書き換える医療をしたい方」にこそふさわしいと思います。

一般目標

脳卒中診療の基本につき理解し初期対応できるようになる。中枢神経疾患の診察、検査、治療について理解し、脳血管内治療の適応、手技につき学ぶ。

行動目標

- 1) 脳血管障害の基本的診察、NIHSS、初期対応、ファーストライン検査の進め方を身に着ける。
- 2) 脳神経系画像検査(エコー、CT、MRI、SPECT、脳血管撮影)の読み方を身に着ける。
- 3) 脳血管障害の全身管理、薬物療法の基本ができるようになる。
- 4) 急性期脳梗塞への tPA 療法ができるようになる。
- 5) 脳血管障害の IVR および手術療法の適応を理解し当該科にコンサルトができるようになる。

経験目標

- 1) ERにおいて神経救急患者の迅速な病歴聴取と神経学的診察ができる
- 2) 脳梗塞患者のNIHSS評価ができる
- 3) 頭部CT所見を理解し専門医へのコンサルテーションができる
- 4) カンファレンスにて適格な症例提示ができる
- 5) 講習会に参加しtPA療法が迅速にできるようになる
- 6) MRIの各モダリティについて理解し適切なオーダーができる
- 7) SPECT検査の適応と脳循環のステージ分類を理解しオーダーできる
- 8) 頸動脈エコーを実施し所見を解釈できる
- 9) 脳血管造影の適応、基本手技につき理解し安全に実施できる
- 10) 脳血管内治療の適応、基本手技につき理解し準備ができる

指導体制

ERにて指導医とともに神経救急患者の初期対応を経験していただきます。また副主治医となり入院患者の診療を担当します。血管撮影においては検者として、脳血管内治療においては助手として積極的に参加していただきます。もし希望されるのであれば、時間外緊急症例への治療参加も許可いたします（休日深夜呼び出されることとなりますが）。